

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	アメリカ合衆国 ハーバード大学
調査日時	2010 年 5 月 17 日～5 月 24 日（8 日間）
調査対象機関・学科・個人名	ハーバード大学 1. 東アジア言語文明学科 The Department of East Asian Languages and Civilization, Harvard University, 5 Bryant Street, Cambridge, MA 02138, USA 日本語教育プログラム責任者 Professor Wesley Mark Jacobsen (Professor of the Practice of Japanese language, Director of the Japanese Language Program) 2. 言語学科 The Department of Linguistics, James. C.-T . Huang(黄正徳)教授
訪問目的	1. ハーバード大学における日本学・日本語教育の調査 2. ハーバード大学において 5 月 20 日（木）～ 22 日（土）に開催された International Association of Chinese Linguistics への参加、中日対照言語学研究者との交流 3. 国際日本語教育部門プロジェクト（2010～2013）「日本語学習者の母語・地域性を踏まえた日本語教育研究」の研究成果である「中国語と日本語の複合動詞対照研究と言語教育への応用」についての学会発表
調査方法	項目に従ったインタビュー

調査結果	【機関の性格】 1937 年より、中国語と日本語の教授が始まったのが、ハーバード大学の日本語教育の始まりである。その後、東アジア言語文明学部（Department of East Asian Languages and Civilization）において Japanese Language Program として全学に開かれた日本語教育のコースを設けている。東アジア言語文明学部では、中国語、日本語、韓国語、ベトナム語の四言語及び各国の文化について学ぶ。 1980 年代までは、学問のための日本語、講読のための日本語教育という性格が強かったが、1980 年代からは、コミュニケーション能力の養成へのニーズが高まってきている。 1994 年が、ハーバード大学における日本語教育のターニングポイントで、中国語を選ぶ学生が日本語を選ぶ学生よりも多くなり、その後、毎年中国語履修者 300 名程度、日本語履修者 160 名程度という情勢である。 【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 日本語教育に関しては、全学日本語プログラムで、学部・大学院生の区別はなく、学習歴 1 年目から 5 年目の各レベルの日本語コースがある。また、夏期集中コース 8 週間もある。 日本文学・日本学については、ライシャワー研究所（Reischauer Institute）より、日本文学、宗教、歴史の教授が教授している。 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 テキストは、初級：『ななかま』Ⅰ、Ⅱ、中級以上：生の日本語（新聞・雑誌記事など）を編集したものをオリジナルで作成している。 日本語のクラスにおいては、コミュニケーション能力の養成を重視している。80 年代までは、ビジネスのための日本語のニーズが高かったが、90 年代以降は、日本のポップカルチャーへの興味が日本語履修の動機になっていることが多くなった。 また、アジア系の米国人学生の場合、自分自身の identity の探求の際、日本学の視点が欠かせないため、日本語を履修するという動機もある。さらに、中国学専攻の学生には、3 年間の日本語履修が義務付けられている。 理系専攻の学生には、物理・生物で、日本語で最新の研究成果が読めるようになることが学習目標となっている。特にロボット研究の分野では、日本語で最新の研究成果を読む必要がある。
------	--

	現段階では、東アジア言語文明学部日本語教育専攻の大学院コースはないが、言語学科において、Professor Wesley Mark Jacobsen James, C.-T. Huang(黄正徳)教授が日本語に関わる言語学専攻の大学院生を指導している。 また、日本への留学も推奨しており、以下のようなコースを紹介している。 1) 8 週間サマーコースへの日本留学： 8 週間を 1 年分の日本語学習の単位とみなすため、8 週間サマーコースに参加すれば、1 年分の単位として認めている。 主な留学先は、以下のサマーコースの 2 箇所、30 名程度送っている。 Princeton in Ishikawa http://www.princeton.edu/~pii/ 北海道国際交流センター (Hokkaido International Foundation) http://www.hif.or.jp/en/program/ ほかに、インターンシップとして送る人数を合わせると、計 70 名程度の学生を日本に送っている。 2) 1 年日本語プログラムへの留学： Kyoto Consortium for Japanese Studies http://www.ogp.columbia.edu/ のほか、上智大学、京都仏教大学、早稲田大学、慶応大学、国際基督教大学、南山大学でのプログラムも単位として認定している。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 Directorのもと、日本人教員が 9 名在籍している。日本人教員は、Preceptor と呼ばれる教員と、Drill Instructor と呼ばれる教員がいる。Senior Preceptor 1 名が終身雇用である以外は、任期制。Preceptor は 70 名程度の日本語クラスを担当し、Drill Instructor は、70 名クラスの日本語の授業を受けた学生たちを対象に、10 名程度の少人数クラスに分けてトレーニングを行う日本語クラスを担当する。 採用は公募による。ICU、コーネル、アイオワ、オレゴン、ウィスコンシン大学などで修士の学位を修了した教員が多い。採用条件としては、アメリカの大学での教授歴が必要である。TESOL をとった教員もいる。
--	---

	【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 政府関係者、学術分野、金融関係、映画関係の仕事に就くことが多い。 【まとめ】 この訪問がご縁となり、2010年8月から2011年3月まで、サバティカルに東京の国立国語研究所に来られた Professor Wesley Mark Jacobsen には、東京外国語大学留学生課が住居のご紹介をすることになり、東京外国語大学近隣に居住され、本学の教員と親しく交流する機会を得た。 2010年12月7日（火）には、“Understanding Japanese through its Structure: How Linguistics Can Contribute to Language Learning ” というテーマでご講演をいただき、本学の学生・教員及び一般市民の方々100名と交流した。その際のポスター、パワーポイントは、別添のとおり。
備考	【東京外国語大学との関係（外語大卒業生の有無など）】 近藤安月子元東外大教授（現東京大学教授）が日本語プログラムの教員をしていた。 【連絡先】 Professor Wesley Mark Jacobsen jacobsen@fas.harvard.edu

調査担当者： 望月 圭子

1. 夜明け前のハーバード大学遠景



2010 年 5 月 朝焼けのハーバード大学と大学前の地下鉄ハーバードスクエア駅。真中の尖塔は、ハーバードのシンボルの一つでもある Memorial Church(1932 年)。第一次・第二次世界大戦で亡くなったハーバード大学生の鎮魂のために建てられた教会。

2. ハーバード大学記念教会 Memorial church (1932)



2010 年 5 月 ハーバード大学創立当初からあるハーバードヤード Harvard Yard にある、記念教会 Memorial Church(1932 年)。第一次・第二次世界大戦で亡くなったハーバード大学生の鎮魂のために建てられた教会。前には、イベントスペースがある。

3. ハーバード大学正門 Johnston Gate(1890)



ハーバード大学の正門とされるジョンストンゲート Johnston Gate(1890 年)。
ハーバード大学創立当初からあるキャンパス Harvard Yard は、観光客が多いが、意外に狭く、徒歩 10 分くらいで通り抜けることができる。

4. University Hall(1815)と初代後援者牧師 John Harvard の銅像



正門をくぐると正面には、University Hall(1815 年)とその前の初代後援者である牧師 John Harvard の銅像。この銅像の靴をなでると、幸運が訪れるといわれており、靴の部分だけ、皆になでられて、ぴかぴかに輝いていた。

5. 創設当初からの中核的キャンパス Harvard Yard



新緑のハーバードヤード。春学期はすでに4月で終わり、5月から7月は夏休みに入っていて、学会シーズンとなっていた。

6. 世界最大の大学図書館ワイドナー記念図書館



世界最大の大学図書館ワイドナー記念図書館 Widener Memorial Library(1914).タイタニック号の事故で亡くなった卒業生、ハリー・エルキンズ・ワイドナーHarry Elkins Widener の母親が、貴重本蒐集家であったハリーの蔵書 3,000 冊を建物と共に寄贈したという。

7. 東アジア言語文明学科日本語教育プログラム責任者 Professor Wesley Mark Jacobsen との面談



8. 言語学科 Professor James C.-T. Huang とハーバード大学燕京研究所の園庭での学年末昼食会



言語学科の James C.-T.Huang 教授のもとでは、日本語学の分野の博士課程の日本人学生も在籍しており、東アジア言語文明学科の Wesley Jacobsen 教授と共同指導を行っているという。学年末の燕京研究所主催の昼食会では、International Association of Chinese Linguistics の参加者と親しく交流する貴重な機会であった。

9. ハーバード大学東アジア言語文明学科で行われた、国際中国語学会における、中日対照言語学に関する研究発表風景



10. ハーバード大学の大学生協書店



格式ある三階建ての建物で、ハーバード大学キャンパスに隣接する大学生協書店。中には、本を読みながら休めるカフェがあった。カフェ横で、どのように小論文を書けばハーバード大学に入れるか、という受験本が山積みになっていたのので、購入した。

11. ハーバード大学の大学生協書店の日本の漫画コーナー



ハーバード大学では、日本のサブカルチャーに幼少時より親しんだため、日本語を学習する学生が多いという。ハーバード大学大学生協書店でも、かなりのスペースがナルト、コナン等のコミック売り場としてさかれていた。

12. 東アジア言語文明学科日本語教育プログラム責任者 Professor Wesley Mark Jacobsen による東京外国語大学での講演



2010年8月よりサバティカルで国立国語研究所の客員教授として東京に滞在された Wesley Jacobsen 教授を2010年12月7日、東京外国語大学にお招きして、「日本語教育のための言語学：日本語の言語構造と日英対照の視点から」というテーマで100名の教員・学生・一般市民対象に英語でご講演いただいた。本学通訳特化コースの大学院生二名が同時通訳を務めた。当日のハンドアウト資料は、別ファイルにて、ダウンロード可能。

13. ご講演後、Professor Wesley Mark を囲む東京外国語大学国際日本研究センター教員・本学大学院生

